

● 第5回 マダム・バタフライ 国際コンクールin長崎

吉田峰明

「第5回マダム・バタフライ国際コンクールin長崎」は2016年6月から11月にかけて長崎市内の会場において行われた。主催はNagasaki Opera Plan 21実行委員会。今回応募者は、日本・韓国・台湾・ベトナム・中国・シンガポール・イタリアより、ソプラノ・メゾソプラノ・テノール・バリトン各部門総計54名。審査員は、栗林義信（審査委員長）、林康子、勝部太、松本美和子、永井和子、崔岩光、沈松鶴の各氏。

第1次審査は6月2日（木）、3日（金）の2日間、長崎市内のNBC長崎放送第1スタジオにて、録音テープによる審査が行われ、36名が通過して第2次審査へと進んだ。第2次審査以降は11月24・25・26日の3日間にかけて、長崎市内会場で公開の演奏会形式による審査となる（主催はNagasaki Opera Plan21実行委員会と長崎市）。演奏会での聴衆者数は3日間で延べ1600名であった。

第2次審査は11月24日（木）、長崎ブリックホール大ホールにて、ステージ上でピアノ伴奏付きの演奏により行われた。各出演者は10分間の持ち時間で課題曲と自由曲の2曲を演奏。ここで31名が通過した。本選は11月25日（金）、長崎ブリックホール大ホールにて、第2次審査と同じくステージ上でピアノ伴奏付きの演奏により行われた。出演者は課題曲と自由曲の3曲を演奏。ここで8名の入賞者が選ばれた。

入賞者記念コンサートは、第1位～第3位の3名と他5名に分かれて行われた。まず5名の演奏が11月26日（土）11時30分より、長崎県美術館にて行われた。次いで第1位～第3位の演奏がグラバー園内最上部にある、360度見渡せる野外特設会場にて行われた。入賞者は次の通り。第1位ハオ・シンワ（中国・テノール）、第2位リ・シントン（中国・ソプラノ）、第3位キム・サムジュ（韓国・メゾソプラノ）、以下入賞者として、パク・ヒョンキョン（韓国・ソプラノ）、土屋優子（日本・ソプラノ）、吉田真澄（日本・ソプラノ）、ガブリエーレ・ドラーツィオ（イタリア・バリトン）、申寿美（韓国・ソプラノ）。

グラバー園における入賞者記念コンサートは、活水女子大学と長崎大学の学生たちによるオープニング演奏（フルート四重奏）、長崎市長（代理）による開会あいさつ、審査委員長による記念スピーチに続いて演奏が披露された。キム・サムジュが「カヴァレリア・ルスティカーナ」より「ママも知るとおり」、ならびに「サムソンとデリラ」より「あなたの声で心は開く」を、リ・シントンが「ラ・ボエーム」より「私の名はミミ」、ならびに「蝶々夫人」より「ある晴れた日に」、ハオ・シンワが「蝶々夫人」より「さようなら、愛の家よ」、ならびに「道化師」より「衣装をつけろ」を歌った。

マダム・バタフライ国際コンクールは、イタリアの作曲家ブッチェーニ(1858～1924)が1904年に作曲した代表作、オペラ「蝶々夫人」の舞台となった長崎にて開催されている。長崎は日本に最初オペラやオペレッタが入ってきた地であり、西洋と東洋の文化の窓口でもあることから、「Nagasaki Opera Plan21実行委員会」が結成され、同オペラがイタリアで初演された1904年

から100年後の2004年に第1回コンクールを開催、以降長崎市にて不定期に開催されている。同実行委員会では「世界都市・長崎を目指して」のスローガンのもと、「世界で通用するトップレベルの音楽家の発掘と育成」「世界で活躍するトップレベルの音楽家と地元音楽家との共演」「トップレベルの音楽家を輩出する『世界都市・長崎』の発信」をビジョンとして掲げている。

最後にこれまでのコンクールの概要を記す。第1回コンクールは2004年に開催。応募者数は4ヶ国から142名。8月に第1次審査（テープ審査）、11月の3日間で第2次審査、最終審査、入賞者記念披露（グラバー園）。第1位乗松恵美（日本・ソプラノ）、第2位チョウ・ジンホァン（中国・テノール）、第3位チュン・テンチン（中国・ソプラノ）。第2回コンクールは2006年に開催。応募者数は8ヶ国から127名。5月に第1次審査（テープ審査）、9月の3日間で第2次審査、最終審査、入賞者記念コンサート（グラバー園）。第1位クウア・ルーフ（中国・ソプラノ）、第2位ファン・ビョンナム（韓国・テノール）第3位チョン・ソンミ（韓国・ソプラノ）。第3回コンクールは2008年に開催。応募者数は12ヶ国から155名。6月に第1次審査（テープ審査）、11月の3日間で第2次審査、最終審査、入賞者記念コンサート（グラバー園）。第1位キム・ジョンキュ（韓国・テノール）、第2位岡田尚之（日本・テノール）、第3位ワン・カイ（中国・テノール）。第4回コンクールは2011年に開催。応募者数は7ヶ国から100名。5月に第1次審査（テープ審査）、10月の3日間で第2次審査、最終審査、入賞者記念コンサート（グラバー園）。第1位リュウ・ユ（中国・テノール）、第2位マー・ファンファン（中国・ソプラノ）、第3位ソン・グッケ（韓国・バリトン）。